2022 年度
武田中学校高等学校
インターアクト部活動報告

2022 年度　武田中学校高等学校　インターアクトクラブ活動報告

当クラブは月，水，金曜日を全体活動日とし火，木曜日は自主活動日としております。本稿では紙面の都合で通常の活動は割愛させていただきます。

＜7 月＞
ディベート強化練習

秋以降に出場する英語ディベート大会に向けて、練習を重ねました。英語を使って思っていることを表現すること自体が難しいのに、さらにテーマに関連する専門用語を使い、論理的に話さないといけないので最初はうまくいきませんでした。留学生や日ごろから英語使用に慣れている生徒を中心に全員で少しずつスキルアップしていきました。ディベートでは事前準備が本番同様に重要であるため、事前の準備を行いながら、様々な知識も獲得することができました。

＜8 月＞
インドネシア Al Biruni Mandiri School との Zoom 国際交流

インドネシアの Al Biruni Mandiri School と Zoom を使ったオンライン国際交流をしました。Al Biruni Mandiri School はインドネシアの南部に位置しているイスラム教中高一貫校です。交流の前半では、3 年生の新谷玲子さんが代表してインドネシア語と英語で学校紹介をしました。彼女は英語だけでなくインドネシア語にも堪能で, Al Biruni Mandiri 校側も武田側もみんな感心していました。後半では、日本とインドネシアの学校生活についてお互いに質問しました。内容は、学校の一日のスケジュール、教育目標、部活、昼食、学食、校訓と制服についてでした。インドネシア側は全部で 100 名くらいの参加者がありましたが、積極的に質問してくれたり、武田生の発表に熱心に耳を傾けたりする姿勢から、日本の学校文化への関心の高さがうかがえました。会の最後は画面越しではありましたがインドネシアと日本の国旗を持って記念撮影をしました。

＜9月＞
スポ GOMI 甲子園 2022　広島県大会への出場に向けて

「スポーツで、街をキレイにする！」
スポ GOMI は、企業や団体が取り組む従来型のごみ拾いに、「スポーツ」のエッセンスを加え、今までの社会奉仕活動を「競技」へと変換させた日本発祥の全く新しいスポーツです。（公式ホームページより引用）

　環境美化意識が高く普段から環境美化活動にも取り組んでいるインターアクトメンバーがゴミ拾いの技術の腕試しをしたいという思いから、月末にスポ GOMI 甲子園広島県大会に出場することになり、大会に向けて競技を意識した清掃活動を行いました。時間を計りながら効率よくゴミを収集し、分別するトレーニングを学校内で実施しました。台風直後ということもありたくさんのゴミを回収しました。

＜9 月＞
国連訓練調査研究所 UNITAR 青少年大使として部員が活躍

　部員から信行恵奈さんが国連訓練調査研究所＝UNITAR 青少年大使に選ばれ、様々な学校の大使と協力して SDGs について研究を深め，ディスカッションを繰り返していき，SDG s 達成に向けたソリューションを考えました。

＜10 月＞

ハロウィーンパンプキンコンテスト 2022

毎年恒例, 武田名物となりましたハロウィーンパンプキンコンテストを行いました。企画から運営まですべてをインターアクトクラブが実施しました。年々クオリティが上がっているこのコンテストですが，今年も力作ぞろいとなりました。完成後，各チームが工夫をこらして加工したパンプキンに火を灯すと，武道場前は幻想的な雰囲気に包まれました。

卒業生によるポーランド体験談とお菓子作り

２年前に本校を卒業し叡啓大学に通う清水渚先輩と広島大学に通う下野紗羽さんが部活に来てくれました。清水先輩はこの度、ポーランドを訪れて見聞を広めてこられ、その体験を後輩たちに伝えてくれました。インターアクトクラブは長きにわたりポーランドの高校とオンラインで交流を行ってきたことが、今回のポーランド訪問のきっかけだったそうです。

前半は現地で撮った写真を見せながら色んな話を聞かせてくれました。美しいヨーロッパの街並みや美味しそうな料理の数々に現地に行ってみたくなりました。またアンネの日記で有名なアウシュビッツ強制収容所の写真は非常にショッキングで、平和について改めて考えさせられました。ウクライナ人、ポーランド人、そして清水先輩が三か国の国旗と一緒に写っている写真はとても印象的でした。

後半では、ポーランドの家庭料理であるピエロギ作りに挑戦しました。これは水餃子のような料理ですが、中身は果物であるのでどのような味になるのか食べるまで予想ができませんでした。皮をこねる過程を省略するために市販の

餃子の皮で代用したため、ゆでる途中で中身が出てしまったものもありましたが、初めて食べる味や食感を楽しめました。

＜11月＞

第17回全国高校生　英語ディベート大会出場

高校生英語ディベート大会広島県大会において、過去最高順位を得ることができ、広島県の代表に選ばれて、この度初めて全国大会に出場しました。今回の出場にはドイツ人留学生のフィンレィさんも含めたチームで挑みました。全国大会の出場校は全国模試のランキングやテレビ番組の高校生クイズ等で聞いたことのある有名な学校が多く、出場校リストを見ると気後れするほどでした。今大会のテーマは“That the Japanese Government should abolish the mandatory retirement age system”=「日本政府は、定年制を廃止するべきである。是か非か」でした。1日目は4校とディベートをしました。対戦相手は全国大会常連校も少なくなかったですが、これまで準備してきたことを最大限に発揮し、リーダーの2名を中心にチームワークで一歩も引かない戦いをしました。最初の3回の戦いは僅差で負けてしましましたが、回を重ねる毎に戦い方が分かり、勢いもついてきて、4戦目では遂に勝利することができました。全国大会初出場で初勝利ができるとは予想しておらず、全員で大いに喜びました。2日目は2校とディベートをしました。1日目の勝利を経て更に勢いがつき、何と2勝することができました。毎試合後にジャッジの先生方から講評をいただくのですが、先生方からも高評価をいただき達成感と自信を得ることができました。

＜12 月＞

ポーランドの高校とのクリスマス交流会

毎年恒例となったポーランドの高校とのクリスマス交流会を実施しました。こちらの高校との交流は 10 年以上前から続いており、この時期の楽しみの一つとなっています。

最初にポーランドの高校生が日本の冬の過ごし方について色々な質問をしてくれました。こちらからは事前に準備したスライドを用いてプレゼンテーション形式で、日本のクリスマスの過ごし方、食べ物、街の様子などの発表や、日本のお祭り、スポーツ、漢字の表す意味、アニメに関するクイズを出しました。特にアニメに関するクイズでは用意したヒントを出す間もなく、直ぐに正解が出たので、日本のアニメの人気ぶりを再確認しました。

続いて、この交流会の一番の目玉イベントであるポーランドの占いを体験しました。この占いはカギの穴の上からロウソクをたらし、それを水の上に垂らして、冷えて固まったロウの形を見て、将来を予想するというものです。ポーランド、武田が交互に行い、浮かび上がってきたロウを見せ合って何の形に見えるかをお互いでイメージしました。人魚、カエル、白鳥等、様々な形が現れて大変盛り上がりました。

いつかは対面で交流できる日を希望しながら、これからもポーランドの友好関係を温めていきたいです。

＜1月＞
台湾・中国についての学習

インターアクトクラブはこれまでに中国料理や風水等を、中国出身の方々の協力の下、学習および体験させていただいてきました。一方、近年の台湾スイーツのブームもあり、台湾に対して興味をもつ部員も増えてきました。特に最近は中国、台湾を取り巻く世界情勢の動きが頻繁に報道されるようになったことからも、インターアクトとして中国と台湾の関係について本格的に学ぶことにしました。この度、広島大学大学院の博士課程で学ぶ台湾ご出身の Jessi 先生にご協力いただき、台湾についてレクチャーいただくことができました。Jessi 先生は日本語がご堪能で、とてもフレンドリーに話して下さり、教員側からすればドキッとするような生徒からの質問にも誠実に答えてくださいました。今回はオンラインでのセッションでしたが、今度は直接お目にかかれることを楽しみにしております。台湾料理も教えてもらいたいと思っています。
引き続き台湾および中国に関する知識と理解を深めていきます。

＜2月＞
パレスチナ物語の輪読とパレスチナ料理体験

「いろんなルーツを持つみんなの保健室　ラディチェス（広島)」を主宰されている広瀬ケーナさんからお声がけいただき、パレスチナを学べるイベントに参加させていただきました。今回は講師としてパレスチナと日本のミックスでいらっしゃる Maha さんが参加され、パレスチナ関係者の生の声を聞かせていただけました。

前半部は、事前にいただいていた課題図書「ハイファに戻って/太陽の男たち」より「悲しいオレンジの実る土地」について、各自が読んだ感想や疑問点、本の内容から連想される現在の自分の身の回りに起きていることなどについてディスカッションしました。様々な経験を積まれてきた社会人の方々および多国籍の方々の視点や考え方に触れることができ有意義な時間を過ごせました。

後半部では、「ひっくり返したもの」という意味の中東地域の伝統的な炊き込みご飯であるマックルーベの調理実習と試食をさせていただきました。Maha さんがパレスチナから持ち帰られた本場のスパイスやハラル食材が用いられたオーセンティックなレシピでした。みんなで調理をしながら他の参加者の方々の海外経験やパレスチナの食文化に関するお話しも聞くことができました。初めて食べたマックルーベは、スパイスの辛さを揚げたカリフラワーとナスがマイルドにしてくれて優しい味わいでした。

トルコ・シリア大地震に対する緊急募金活動

トルコ南部およびシリア北西部の国境付近で 2 月 6 日に発生した大地震では、2 月 17 日現在で 4 万 3000 人以上の犠牲者が確認されています。2 月 10 日(金)の昼休憩に学校内で緊急の募金活動を行い、30 分程度でしたが武田生および教職員の善意により、32,511 円を集めることができました。これにインターアクトが外部から獲得した支援金を合わせた 6 万円を寄付することとしました。
特にシリアでは長年内戦が続いており、大地震の一番被害が大きかった地域は反政府勢力および難民の方々が住んでおられる場所になり、海外からの援助が入りにくい状況にあります。インターアクトでは長年シリアの方々との交流があり、東広島在住のシリア人の方がシリア北西部で復興救助支援を行っている NGO に送金をしているとの情報を得たので、こちらに武田の募金を託すことを決めました。メジャーの支援組織に送金するよりも迅速かつ直接的に、武田生の思いが被災者に届くと考えたことも理由の一つです。

2 月 17 日(金)にイスラム文化センターに赴き、Dr.Bahaa 氏に義援金を手渡しました。Dr.Bahaa 氏の関係者にも大勢の被災者がいるとのことで落胆されている様子でしたが、日本の中高校生が母国を思ってくれていることを大変喜んで

くださり、感謝されていました。

＜3月＞
第25回ヒロシマ平和創造基金「国際交流奨励賞」受賞

３月３日(金)、インターアクトクラブは「教育、学術、文化など広い分野にわたって、国際交流や平和創造に貢献した団体、個人の活動をたたえることを目的」(公益財団法人　ヒロシマ平和創造基金 HP より引用)とした国際交流奨励賞を受賞しました。これまでに国内外の人々と一緒に「社会奉仕」「平和貢献」「国際理解」を三本柱として活動してきたことを認めていただけたことを非常に嬉しく思います。

＜4月＞
ランドセルプレゼントプロジェクト

国際学術研究都市を謳う東広島市には、大学関係者を中心にたくさんの外国籍の方が住んでおられます。そして毎年多くの外国籍の子どもが小学校に入学します。ランドセルは高価な物であり、その購入が難しいという声は以前より聞いていました。これまでは一部の武田生から寄付されたランドセルを必要としている方に届けるという形をとってきましたが、今回は武田中学校高等学校の保護者様全体に呼びかけ、寄付を募りました。春休み直前の呼びかけにも関わら

ず連日学校に届けて下さり、70 個以上が集まりました。集められたランドセルは部員で一つ一つ丁寧に心を込めて磨き、ステキな小学校生活が送れるようにと願いを込めました。
以前より一緒に活動をさせて頂いているアフガニスタンコミュニティとインドネシアコミュニティにあわせて約 30 個のランドセルをプレゼントしました。受け取った子どもたちは本当に嬉しそうな表情をしており、感謝の言葉を述べてくれました。また保護者の方々は「ランドセルの状態が非常に良く、6 年間使われたことが信じられない」と驚かれ、感謝しておられました。
武田生が 6 年間大切に使ったランドセルが再び活躍することになります。SDGｓの観点からも価値あるこの活動を今後も継続していきます。今後もイマジネーションを働かせ SUSTAINABLE な活動を展開していきます。

＜5 月＞
如水館高校インターアクトクラブ主催　指導者研修会への参加

今回は「ともに生きる　～異文化理解とその先へ～」というテーマで 2 部構成でした。第 1 部ではメキシコ出身で長年にわたり英語・日本語・スペイン語で通訳者として活躍され、現在は広島県国際交流員として活動されているダニエル・サンチェスさんによる講演を聴講しました。ダニエル先生のこれまでのご経験や、メキシコの様々な文化について説明して下さり、メキシコについてたくさんのことを知れ、生徒からの質問にも丁寧に答えていただきました。また、協力者として三原国際外語学院の先生と、こちらで日本語を勉強されている 20 名の留学生も参加してくださいました。

第 2 部では、参加者を 6 つのグループに分けて、数名の留学生の方々にグループに加わっていただき、留学生の方々が日本にきて経験された困ったエピソードを共有していただき、解決策を考えるというアクティビティでした。「留学生だけではアパートが借りられな

い」「スーパーに行って買い物をする場合、宗教上食べることができない食材が入っているか分からない」「お祈りをする場所がない」「ハラルフード(イスラム教の人々が食べることができる食べ物や食材)を購入することが難しい」などたくさんの問題を知り、これらの問題に対して高校生や地域社会がどのようにすれば、外国人がもっと住みやすくなるかについて話し合い、全体でシャアしました。

本日は他校の意識の高い同世代と語り合えたことで大変有意義な経験を積むことができました。今回の研修会で学び考えたことを、今後の活動に生かし、身の回りの外国人の方々をサポートできる人材を目指します。

研修会を長きにわたって準備し運営してくださった如水館高校インターアクトクラブの皆様、本当にありがとうございました。